

高等学校 令和8年度（1学年用）教科 国語 科目 言語文化

教科：国語 科目：言語文化 単位数：2 単位

対象学年組：第1学年 1組～5組

教科担当者：（1組：松本）（2組：松本）（3組：松本）（4組：松本）（5組：松本）（組：）

使用教科書：（『新編 言語文化』東京書籍）

教科 国語 の目標：

- 【知識及び技能】生涯にわたる社会生活に必要な国語について、その特質を理解し適切に使うことができるようにする。
- 【思考力、判断力、表現力等】生涯にわたる社会生活における他者との関わりの中で伝え合う力を高め、思考力や想像力を伸ばす。
- 【学びに向かう力、人間性等】言葉のもつ価値への認識を深めるとともに、言語感覚を磨き、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、生涯にわたり国語を尊重してその能力の向上を図る態度を養う。

科目 言語文化 の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に対する理解を深めることができるようにする。	論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。	言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	領域			評価規準	知	思	態	配当 時数
			話 聞	書	読					
1 学 期	引用歌や体験談に注意しながら、日本独特の桜に対する感性について理解を深める。	桜に対するイメージや筆者について知っていることを発表する。 本文を通読し、三つの部分に分けて、それぞれの話題をまとめる。 第一段における要点がどの部分に示されているかを考え、それが本文全体でどのような意味を持つか考察する。 具体例から日本と外国での桜に対する感じ方や考え方の違いを理解する。 短歌の内容と詠まれた心情についての考察を踏まえて、筆者の桜への思いを整理する。		○	○	・文章の意味は、文脈の中で形成されることを理解している。 ・文章の種類を踏まえて、内容や構成、展開などについて叙述を基に的確に捉えている。 ・作品や文章に表れているものの見方、感じ方、考え方を捉え、内容を解釈している。 ・進んで日本独特の桜に対する感性について理解を深め、学習課題に沿って本文や引用歌の考察を踏まえながら筆者の桜への思いを整理しようとしている。	○	○	○	6
	定期考査			○	○		○	○		1
	それぞれの文章の、リズムや調子の違いを感じ取る。	古文と現代文の違いについて確認する。 古文の代表作品の冒頭を音読する。 現代とは仮名遣いが違うことを知る。 暗唱し、古文のリズムや調子を体感する。			○	・我が国の言語文化の特質や我が国の文化と外国の文化との関係について理解している。 ・古典の世界に親しむために、古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまり、古典特有の表現などについて理解している。 ・進んで音読して古典の世界に親しみ、学習課題に沿って古文のリズムや調子を感じ取ろうとしている。	○	○	○	6
	歴史的仮名遣いについて理解し、説話のおもしろさを読み取る。	本文を音読し、歴史的仮名遣いに慣れる。 児の気持ちの変化を整理し、最後の描写の意味について考える。 現代語訳する際の注意点を理解する。			○	・古典の世界に親しむために、古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまり、古典特有の表現などについて理解している。 ・進んで歴史的仮名遣いについて理解し、学習課題に沿って説話のおもしろさを読み取ろうとしている。	○	○	○	8
	定期考査			○	○		○	○		1
2 学 期	極限状態にある登場人物の心情の変化を、場面の展開に即して読み取り、主題を考える。	全文を通読し、時代背景を確かめる。 「作者」の説明に従って、「下人」の行動を順を追って整理する。 「下人」と「老婆」について、比喩で表現した箇所を抜き出し、比喩の効果について考え、まとめる。 「下人」の内面の変化を、変化のきっかけと関連づけながら、整理する。 小説の主題について、自分なりに考えて発表する。			○	・文章の意味は、文脈の中で形成されることを理解している。 ・文章の種類を踏まえて、内容や構成、展開などについて叙述を基に的確に捉えている。 ・作品の内容や解釈を踏まえ、自分のものの見方、感じ方、考え方を深め、我が国の言語文化について自分の考えをもっている。 ・進んで描かれている内容についての見解をまとめ、学習課題に沿って、発表や討論を通じて得た他の意見も踏まえながら、考えを深めようとしている。	○	○	○	12
	定期考査			○	○		○	○		1
	・漢文の特色を知り、訓読のきまりを理解するとともに、格言に親しむ。	中学校で学習した唐詩・『論語』・故事成語を発表し、高校での漢文学習への意識付けを図る。				・我が国の言語文化の特質や我が国の文化と外国の文化との関係について理解している。 ・進んで漢文の特色や訓読のきまりを理解				

		「訓読」の導入文を読み、漢文とは日本語と言語構造が異なるものであり、その漢文を日本語として読む工夫が訓読であることを理解する。			○	○	し、見通しを持って、古典を学ぶ意味について考えを持とうとしている。		○	○	○	15	
	定期考査				○	○			○	○		1	
3 学 期	・短歌独自の特徴と表現効果を理解し、言葉にこめられた情景や心情を読み取る。 ・俳句独自の特徴と表現効果を理解し、想像力を働かせて句の主題を読み取る。	短歌・俳句の基礎知識、概念を確認し、知っている短歌・俳句などを発表し合うことで、短歌・俳句に対して興味を持つ。 掲載された短歌・俳句を音読し、歌のリズムを味わう。 それぞれの歌・句について、読解・鑑賞をして話し合う。				○	○	・言葉には、文化の継承、発展、創造を支える働きがあることを理解している。 ・文章の種類を踏まえて、内容や構成、展開などについて叙述を基に的確に捉えている。 ・進んで短歌や俳句の特徴や表現効果を理解し、学習課題に沿って、それぞれの歌にこめられた情景や心情を読み取ろうとしている。		○	○	○	18
	定期考査				○	○			○	○		1	
												合計	70